

# ふるさとを愛するやさしさがゴミを減らします

## 守っていききたい豊かな自然

暮らしが豊かになるに従って、増え続けるゴミはわたしたちの生活にとって大きな問題となっています。それなのに、何げなく道端や、川にポイッと捨ててしまったことがある人もいます。こうしたゴミのおかげで、道路や川はゴミだらけになってしまっています。

水と緑豊かなわたしたちの都留市には、市の中心を流れる桂川をはじめ、大小様々な川が流れています。今からおよそ三百年前、谷村城主秋元泰朝が田原の滝の上から下谷村までの総延長約一四キロメートルにおよぶ谷村大堰を三

年の歳月をかけて完成させました。以後農業用水として人々に恩恵を与え続けて来ました。こうして残っているのが現在の家中川、寺川、中川、女川です。かつて、その清らかな水の流れにはたくさんの魚や小さな生き物たちが住んでいたそうです。

次第に美しい水の流れとともに、大切な自然はわたしたちの目の前から姿を消しつつあります。どうしたらわたしたちの回りの川や山を昔の美しさに戻すことができるのでしょうか。どうしたらこの素

晴らしい自然を子供たちに残して行くことができるのでしょうか。一度壊れてしまったものは、なかなか元には戻れないのです。しかし、何もせずに、手をこまいていては汚れた川や失われつつある緑は手の届かないところへ行ってしまう。

このたび、宝地区がごみの分別収集のモデル地区に指定され、その第一回目の収集が行われ、予想以上の成果があったことを広報「つる」七月号の街かど通信の欄でご紹介しました。人間が生活を

営む上で、必ず出るゴミ。しかし、そのゴミの中にはもう一度よく考え直せば資源として立派な役にたつものがあります。アルミ缶、牛乳パック、古新聞に古雑誌などは貴重な資源としてリサイクルできるものです。ゴミを出す前にそれがどのようなものであるのかを確認した上で、決められた収集日、所定の場所に出すことによって、ゴミの量は確実に減り、街はきれいになっていきます。

市民の皆さん、どうかふるさとに対する優しさをもち続けてください。その愛情が都留市を「すみよいまち、すんでみたくなるまち」にするはずですよ。

家中川（滝下浄水場前）

食品の汚れぐあい ( )内の量をすてたら	魚が住める水質にするために必要な水の量は風呂おけ何杯分？ (風呂おけ1杯300ℓ)
 使用済みの天ぷら油 (500ml)	330杯分
 おでん (500ml)	25杯分
 牛乳 (200ml)	10杯分
 みそ汁 (200ml)	4.7杯分
 米のとぎ汁 (2ℓ)	4杯分
 ラーメンの汁 (200ml)	3.3杯分
 日本酒 (20ml)	2.7杯分